

「救いは主にあります」

詩篇3篇(宣教要旨)

説教者 A.Na



戦後 75 年…今もなお、紛争や飢餓で苦しむ国は沢山あり、その苦しみは絶えません。他にもあらゆる苦しみや困難を感じる日々…完全な平和、本当に心から安心して生きることは、とても難しいように思えます。

しかし、主を信じる私たちには、主にある平安、本当の安心、安らぎがあります。

[表題…緊迫した中での主への賛美]

ダビデの状況…ダビデに対する敵意や迫害は身内に始まり、味方だった者の裏切りや、自分の国の民であったイスラエルの人々の心は離れ、悪い噂がされる(IIサム 15-17)。

[1, 2 節…迫りくる数多くの敵や攻撃]

「主よ」と自分の周りにある攻撃、敵が「なんと」多いかと訴え、この絶望的な状況から唯一助け出してくださる主に、ダビデは助けを求めます。不安や恐れを感じずにはられない状況です。

[3 節…主はどのようなお方か]

「しかし 主よ」と賛美のことばが続きます。この主への信頼は、ダビデ自身、今まで何度も主の力強いみわざを経験してきたからこそ、生まれたものでした。

私の周りを囲む盾…アブラハム(創 15:1)にもモーセ(申 33:29)にもご自身を現された主が、ダビデに対しても完全に守る盾とされた(詩 18:2)。

私の栄光…救いと栄光は神にあり、その栄光は人間的栄光とは全く違う完全なもの(詩 62:6-8)。

私の頭を上げる方…ダビデと、共にいる者たちは頭をおおっていたが(IIサム 15:30)、主が頭を上げさせてくださり、主を見上げることができた。

[4～6 節…本当の安心、主にある平安]

主の方へと心に向け、主を呼び求めるとき、主は聖なる山(詩 22:2,24:3,43:3,48:1,ゼカ 8:3)から、他のだれでもない、この私に答えてくださいます。

その主にある完全な平安の内に、多くの苦しみや困難、攻撃してくるものが度重なって何度もあったとしても、主に信頼する私たちは恐れや不安から解き放たれ、安心して眠り、また希望の朝を迎えることができます。

強調の「私」…神である主あなたこそが、私の盾であり、祈りを聞いてくださり、敵に囲まれる私を支えてくださいます。だから「私」はあなたに信頼し、主に平安を与えられるので、どんな困難な不安な状況にあっても、眠ることができるのです。

[7 節…主のさばきを待ち望む、確信に満ちた祈り]

自分の手で復讐するのではなく、祈りに応えてくださる神の正しいさばき、その時を求めます。神にこそ、解決があり、私の神である主が、私に向かい立つすべての敵の頬を打ち勝利し、「彼には神の救いが無い」と言っていたその悪しき者の歯を砕いてくださいます。

[8 節…救いの確信、信仰共同体の祈りへ]

受難の預言(イザ 53:4,5)…イエス・キリストが十字架上で、私たちの罪の身代わりに神の怒りの対象となって死なれ、その贖いのみわざによって、信じるすべての者に救いを与え、平安をもたらされました(預言の成就)。

そして、ダビデは個人的な信仰告白にとどまらず、主の民である信仰者たち、私たち信仰の共同体、教会に主の祝福を祈ります。

[朝起きて、感謝をもって祈りましょう]

私たちは、主の平安の中、深い眠りと目覚めのその時、主に感謝し、祈りましょう。

朝起きて、周りにいる神の家族のために、主の救いを受けているすべての者の祝福を願い、祈りましょう。